

#### (4) ①様式第4号-2 (報告書)

※文字の大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：山口大学大学院教育学研究科（教職大学院） 連携機関：山口県教育委員会（後援） 美祢・萩市教育委員会、山口県 PTA 連合会（連携・発表）
※ 機構記入欄 No.	セミナー名：【NITS カフェ in YAMAGUCHI】
:	-
主タイトル	若手の先生たちの成長支援
副タイトル	力のある若手をみんなで育てよう！
テーマ：	<p>本セミナーでは、若手教員（自立・向上期）、中堅教員（充実期）、教委担当者、大学関係者や保護者等が少人数グループ（カフェ形式＝ちゃぶ台）を編成し、特に、若手教員の人材育成に焦点をあて、現状、課題や育成方途等について熱い熟議を行った。その際、「山口県教員育成指標」を活用し、各区分（教育指導、学校運営や自律的成長等）が求める資質能力を規準に、若手教員の現状や困難を炙り出し、課題の克服や成長につながる研修や取組を創造することをとおして、若手教員の成長や資質能力向上を「みんなで支援する」機運を醸成するために企画・実施した。</p> <p>本学の「NITS カフェ」は、「教職生活全体を通じた教員の資質能力向上と人材育成のあり方」を一貫したテーマとしている。1 年目は教職キャリアを自らデザインする意味、ステージ各期に求められる資質能力について、2 年目は優れた教員のヒストリー、成長上の困難と乗り越え成長するための原動力について深めてきた。3 年目となる本年度は、特に喫緊の課題である若手教員の育成に特化し、主人公である若手教員を多数参加させることにより、「自らの成長を自分ごととして捉えさせる」、「成長に向けたエネルギーを発揮・拡散させる」ことに配慮し企画・運営を行った。</p>
内容：	<p>本セミナーは 3 部構成で実施した。第 1 部は、若手・中堅教員に教委人材育成担当者・大学教職員・教職大学院生に保護者を加えて少人数でのワークショップを行った。ワークショップでは、「マンガラート（簡易版）」を使って、「教員育成指標」が各「区分」ごとに示す目標行動を若手教員に「求める姿」とし、若手教員は自らを省察し、他の参加者は若手教員を評価する中で、若手教員の現状や課題を 4 項目に炙り出した。続いて、4 項目それぞれを第 2 階層の中心に置き、その課題解決に資する実効的研修や学校・地域ぐるみの取組を活発に提案しあった。特に、保護者は若手教員の人材育成を支える組織風土や環境醸成の視点から示唆に富んだ助言や介入を行った。</p> <p>第 2 部は、全体発表を行い、若手教員の人材育成のあり方を共有するとともに、学校・地域ぐるみの人材育成風土の醸成に向けて意識を高めた。</p> <p>第 3 部は、美祢・萩市教育委員会教員研修担当者から、若手教員の資質向上、人材育成に関する特色ある取組の実践発表を行うとともに、山口県教育委員会からの講評を受けた。</p>
プログラム内容は次のとおりであった。	
(1)開会行事	挨拶（山口大学大学院教育学研究科長）、プログラム紹介、諸連絡
(2)班別グループワーク（カフェ形式）とシェアリング	テーマ 「若手教員が育つ取組、研修を創ろう（人材育成、自立・向上期）」
(3)報告・発表	テーマ 「若手教員の資質能力の向上を目指して ～主催研修事業等の実際～」 報告者（美祢・萩市教育委員会教員研修担当者）
(4)講評・コメント	講評（山口県教育庁教職員課教育調整監）
(5)閉会行事	挨拶（教育学研究科教職実践高度化専攻長）
当日の参加者は 72 人で、内訳は次のとおりである。	
学校教員 28 人、市教育委員会指導主事 5 人、教職大学院生 17 人、山口県教育庁教育調整監 1 人、保護者 6 人、他大学教員 1 人、山口大学教職員 14 人、計 72 人	

## 成果：

本セミナーでは、研修内容・方法や成果を「アンケート」により測った。受講後に「感想」をメールで寄せてくれた参加者も多数おり、その多くが研修スタイル（カフェ形式）の有効性、ワークや実践発表の質を認め、若手教員の育成や地域への拡散に向けた決意に満ちたものであった。一部を紹介する。

### (1)研修スタイルの有効性について

- ・若手教員、小学校の校長、市教委の指導主事や保護者等、様々な立場の方がいらっしや、協議をとおして自分の視野や知見を広げることができました。
- ・様々な年齢、立場の人が集まって若手の育成について語り合うこと（場）が貴重だと感じました。
- ・初対面の方も含めて、和気藹々と意見交換することができ、自分にはない視点を教えて頂いたと思います。保護者の方の発表が最初であり、感動で胸が熱くなりました。
- ・実際の教育現場の様子を知ることができて良かったです。先生方や院生の方々の「教員としてのプロ意識」が伝わってきて、保護者として安心、尊敬しました。このような研修が行われていることを、より多くの保護者が知る機会があれば良いと思う。今後も参加させて頂きたいと思いました。

### (2)若手教員の育成や地域等への拡散について

- ・若手教員の育成を考えるがテーマであったが、そのためには、結局、ミドルやベテランがどのように動かなければいけないかを考えることとなり、それがまた楽しかったです。
- ・学校教育をより充実させ、効果を上げていく為には、このようにしっかりと協議して、戦略を共有していくことが重要とよく分かりました。学校、地域に持ち帰り、実践していきます。
- ・報告や発表にあったような取組が、県立学校でもあれば良いのにと感じました。高校では、若手が学校に一人、同期は知っているが地域に若手が居るか居らないかも知らない状態で、特に新採だと学校内外で孤独感を感じがちです。教科を超えて近隣の学校で同世代が繋がれる取組があれば、この研修会のように若手教員の元気もより出るのかなと思います。

## アイデアや工夫したこと：

- (1) 第1部の「ワークショップ」では、本学が開発し15年の経験を有する「ちゃぶ台方式」=カフェ形式を導入したこと。参加者の階層、所属、経験年数等による「上下」「一方的」関係を防ぎ、立場や経験を乗り越えて協働的雰囲気の中で協議や交流が進むよう配意した。
- (2) 第2部の「全体発表」では、各班の発表に合わせて「ポスター」を区分ごとに配列し、内容を聞くだけではなく、若手教員に求められる資質能力を区分間の「つながり」で捉えさせるように配意した。
- (3) 第3部の「実践発表」では、本学教職大学院修了生（現在、市教育委員会指導主事）の活用を図った。教職大学院と教育委員会が教員の資質向上という統一された目標（ベクトル）を共有し、相互に連携・協働する際の「要としての存在」機能を共有できるよう配意した。

<写真・図など> 挨拶、ワーク、発表の風景と作成された「ポスター（若手教員を考える簡易版マンガラート）」

